

発見!.

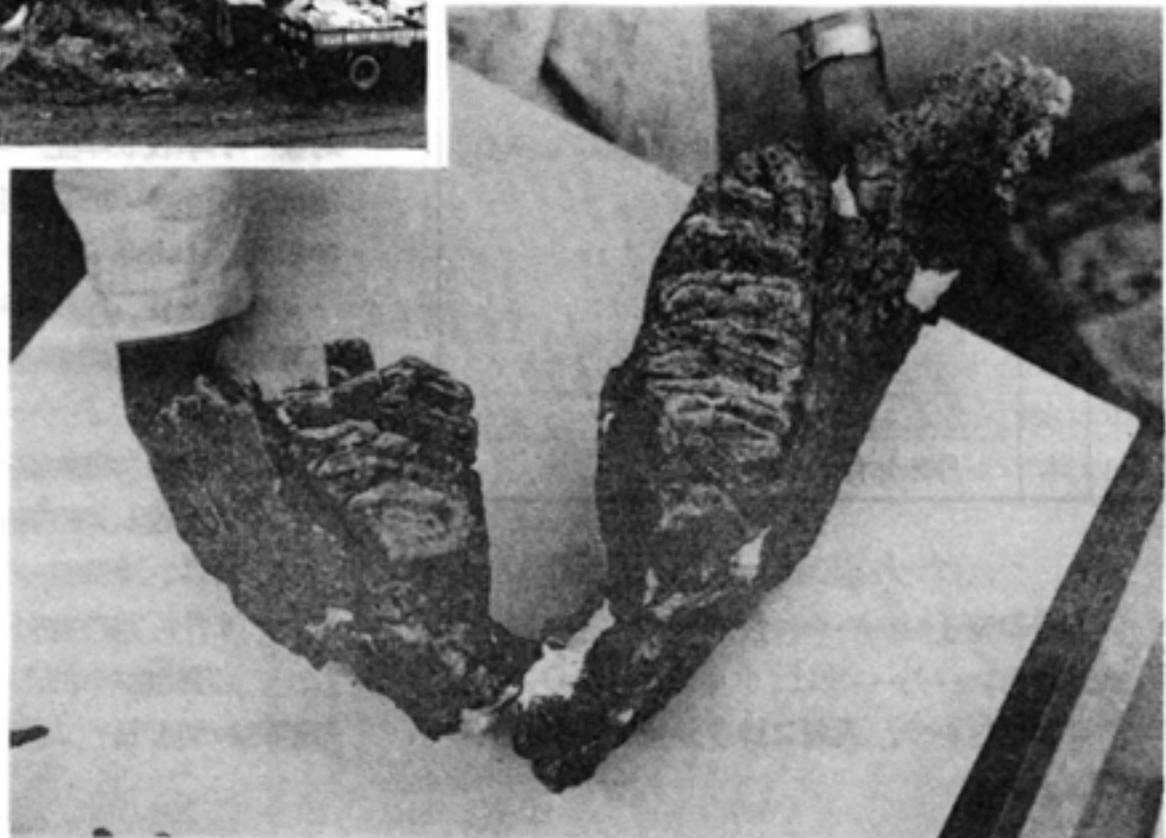
ナウマンゾウ化石

平塚市上吉沢山田屋敷の、城南白洋舎裏の露頭（吉川光雄氏所有）を地質調査中に、ナウマンゾウ化石が発見されました。産出したのは、ゾウの左右の下顎骨および下顎臼歯と首、胸、腰の脊椎骨などです。このほか、シカの臼歯なども同時に見つかりました。骨化石の保存状況が極めて悪いため、現在、保存処理と復元を継続して行っています。



△ 発掘現場写真・平塚市上吉沢山田屋敷

▷ 産出したナウマンゾウの下顎骨

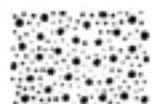


ナウマンゾウは、現在生きているアジアゾウともアフリカゾウとも異なるグループです。このゾウは40万年前から2万年ほど前までにかけて、東アジアに生息していたもので、現在絶滅してしまいました。

今まで、神奈川県内からはいくつかのナウマンゾウ化石が報告されていますが、今回産出した化石は、下顎骨に臼歯がついたまま産出したこと、埋もれていた地層が火山灰により約8万年前と正確にわかっていること、県内産のものの中で生息していた時代が最も新しいことなどの点で、全国的にみても極めて貴重な発見といえます。

いずれにしろ、8万年ほど前には上吉沢付近に沼沢地が広がっていて、ゾウやシカが群れをなして生息していたことが想像されます。

次号から3回にわたって、このナウマンゾウ化石の発掘の経過、産出した骨化石とその意義、ナウマンゾウとはどんな動物か、県内の哺乳動物化石などについて連載します。



6月の行事



1	水	
2	木	
3	金	
4	土	プラネタリウム、古文書講読会
5	日	プラネタリウム
6	月	(休館日)
7	火	
8	水	
9	木	デッサン教室
10	金	↑
11	土	土曜観察会「高麗山の季節ごよみ」 石仏を調べる会
12	日	
13	月	
14	火	全館殺虫消毒のため
15	水	休館となります。
16	木	↓
17	金	
18	土	
19	日	地層観察会「スケッチと柱状図」
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	プラネタリウム 土曜観察会「高麗山の季節ごよみ」 石仏を調べる会
26	日	プラネタリウム
27	月	(休館日)
28	火	
29	水	
30	木	(月末休館日)

※6、7月のプラネタリウムは、「木星・土星の旅」をテーマに投影します。

※寄贈品コーナーでは、6月21日から7月30日まで、高瀬コレクション展を行います。



あなたも参加してみませんか

●プラネタリウムの幼稚園向け投影について

博物館では、6月21日から7月14日までの金曜日を除く平日に、幼稚園団体向けのプラネタリウム投影を行います。現在観覧予約を受け付けております。詳しいことは博物館管理係まで、お問い合わせ下さい。

●夏休み中のプラネタリウム団体投影について

夏休み期間中の、水、木、土曜の午前中、団体(20名以上)向けの投影を行います。現在観覧予約を受け付けております。詳しいことは博物館管理係まで、お問い合わせ下さい。

●自然観察会「大山川を訪ねて」

モミ原生林、沢の生物、大山川の八段滝など、丹沢の生物と地質を観察します。

日時 7月3日(日) 8～17時

(雨天中止)

場所 大山山麓(大山川～下社付近)

申し込み 往復ハガキで、6月25日までに博物館までお申し込み下さい。申し込み多数の場合は、抽選で30名まで。

●サマー・セミナー参加者募集

夏休みに、小・中学生を対象に2泊3日の自然観察と団体生活を体験する会を開催します。

期間 8月9日(火)～11日(木)

場所 天城湯ケ島町「昭和の森、大川端キャンプ場」(静岡県田方郡)

対象 小学校5年生～中学校3年生までの男女
定員 40名(応募者多数の場合は抽選)

参加費 1人9,800円(往復バス代、食費、宿泊費、保険料等、一切を含みます)

応募方法 参加御希望の方は、60円切手を同封の上、「サマー・セミナー案内書希望」と書いて博物館まで申し込んで下さい。折り返し案内書を送付いたします。案内書は、博物館の受け付けでも配布しております。案内書をお読みの上、応募用紙に必要事項を記入し、申し込んで下さい。

応募締め切り日 7月9日(土)



⑪

クローウオッチング

5月9日(月) はれ

4時30分起床。毎日、早起きをして、散歩をかねたカラスの調査を始めて10日あまりになる。はじめのうちは時差ぼけのようなものか、日中も頭がぼやっとしていたが、ようやく体も慣れてきた。

平塚にすんでいるカラスには、くちばしが太いハシボトガラスと、細いハシボンガラスの2種類がある。これらはすみ場所の好みやや違って、森林の続いている所にはハシボト、農耕地の



ハシボンガラス



ハシボトガラス

ような開けた所にはハシボンが多い。そして面白いことに、家の建てこんだ市街地にはハシボトガラスが多いのである。平塚のような大都市では、2種類がまざってすんでいるように見えるのだが、巣を作る樹木、餌をとる場所などに何か違いがないか確かめようというのが、カラス調査の目的である。

高村団地の家を出て、自転車で走り出すと、早速、カー、カーと澄んだハシボトの声が聞えた。公園のすみの電柱に2羽がとまっている。見ていると2羽は、公園に舞い降り、ゴミ箱あさりを始めた。太いくちばしでビニール袋をびりびりさきながら、餌を探している。やがて大きなパンのかげらのようなものを見つけ、くわえて飛び立った。もう1羽も後を追う。巣のひなに運ぼうというのだろうか。巣のありかを見つけるチャンスなので、双眼鏡で後を追うが、団地の建物にかくれて、すぐ見えなくなってしまった。

山下団地を横切り、花水川のサイクリングロードを下流へ下る。大磯町へ入ったあたりで、頭の上からガハハ、ガハハとにぎった声。ハシボンガラスの縄張り宣言の声である。ここはいつ通ってもハシボンがいて、4月にはクスノキに巣の材料

を運んでいた。ところがその巣は作るのを途中でやめてしまい、今の所、どこに作り直したかは不明のままである。

1号線(国道)に出て、東海道線との間をじくざぐに道を選んで走って行く。



巣材も運ぶ

お寺の墓地に、ぽんと立った1本のエノキに巣があって、ハシボンが卵を抱いていた。まだあまり葉がのびていないので、巣は道からもまる見えなのだが、気にしないのか、じっと巣の中に入らずくまり、木の下に行っても飛び立とうとはしない。

駅前を通り、さらに東へ向かうが、このあたりは大きな樹木もないので、さすがにカラスに出会うことは少ない。野帳に何の記録もできないまま、馬入橋まで来てしまった。

馬入橋の北側には、毎年ハシボンのつがいがある。1980年の調査ではタブノキに巣があり、同じ個体かどうかはもちろん判らないが、1981年には近くの送電塔の鉄骨に巣を作った。そして、82年には再びタブノキの巣を使っていたのである。

自転車を降りてタブノキの下まで行ってみると、巣のへりから黒い尾がのぞいている。今年もここを使っているのかと、野帳に書きこんでいると、巣の中のカラスがさっと飛び立ち、上空をぐるりとひと回りしてから建物の屋根にとまった。それを、双眼鏡の視野にとらえると、なんとそれはハシボトガラスだったのである。去年まで確かにハシボンの使っていた巣を、今年にはハシボトが使っている。これは意外な発見であった。前のハシボンはどこへ行ったのだろう。縄張り争いのような形で追い出されたのか・・・などといろいろな疑問がわいてくるが、それに答えるには、地道な観察を積み重ねるしかない。

10日から愛鳥週間。バードウォッチングがかなり広まってきたが、カラスだけを見るクローウオッチングもなかなか楽しいものである。

(浜口学芸員)

